

歴史まちづくりの取り組みについて(令和5年度)

資料1

国(国土交通省・文化庁)	県	協議会・審議会等	市・市議会	具体化方策(関連事業含)	関係者協議	出前講座など
○令和5年5月29日 令和4年度進捗評価シート提出(三省庁) ○令和5年8月8日 東北歴史まちづくり推進委員会設立(事務局:東北地方整備局建政部) ○令和5年9月21日 東北地区無電柱化推進講習会(歴まちにおける取組事例を紹介) ○令和5年10月16日～17日 東北歴史まちづくり推進会議開催(本省,3整備局,県,9認定都市,黒石市取組事例紹介、意見交換、現地視察) ○令和6年1月15日 のしろ市民まちづくりフォーラム参加(風景街道による地域づくり)	○令和5年4月18日 令和5年度交付申請提出 ○令和5年6月5日 歴まち取り組み、景観計画策定(県都市計画課、文化財保護室) ○令和5年7月5日 令和6年度概算要望(WEB) ○令和5年8月30日 秋田県景観行政セミナー ○令和5年9月28日 令和4年度(緑越)完了実績報告 ○令和6年1月18日 令和6年度本要望(WEB)	○令和5年4月1日 協議会委員再任・委嘱 ○令和5年10月1日 協議会委員解任・新任 ○令和5年11月4日 歴史まちづくり2023シビックプライドフォーラム開催 ○令和5年12月15日 景観まちづくり推進協議会設立 ○令和6年3月21日 第2回景観まちづくり推進協議会 ○令和6年3月22日 歴史的風致維持向上協議会 ○令和6年3月22日 市文化財保護審議会	○令和5年4月28日 政策協議(景観計画策定) ○令和5年6月10日 令和5年度事業計画説明(6月定例会建設水道常任委員会) ○令和5年9月6日 歴まちの取り組み状況報告(9月定例会建設水道常任委員会) ○令和5年10月16日 政策協議(桜橋館の利活用推進) ○令和5年11月29日 桜橋館の利活用の推進を説明(12月定例会建設水道常任委員会) ○令和6年3月6日 桜橋館貸館使用料改正を説明(3月定例会建設水道常任委員会)	○令和5年7月6日 田村まさよし氏水彩画集発行報告 ○令和5年8月5日～6日 ハチ公生誕100年フェスティバルin渋谷 ○令和5年8月24日 (緑越)中城地区道路美化完成 ○令和5年8月31日 (緑越)幸町地区道路美化完成 ○令和5年10月3日 景観計画プロボヒアリング審査 ○令和5年10月11日～ 歴史的建造物詳細調査着手 ○令和5年11月6日 寄附採納感謝状贈呈(北鹿ささの会) ○令和5年11月11日～12日 ハチ公生誕100年フェスティバルin大館 ○令和5年11月30日 八幡神社拝殿改修工事完成 ○令和6年1月17日～2月5日 景観まちづくりアンケート実施(市民対象) ○令和6年1月29日～2月29日 景観まちづくりアンケート実施(中学対象) ○令和6年1月31日 神明社本殿屋根、社殿改修完成 ○令和6年2月14日 文化財施設VR映像制作公開 ○令和6年2月22日 桜橋館維持管理プロボヒアリング審査	○令和5年5月8日～ 景観計画策定関係者打合せ ○令和5年5月18日、6月12日 秋田犬保存会と意見交換(桂城公園修景、秋田犬会館改修) ○令和5年5月25日～ シビックプライドフォーラム出演者打合せ ○令和5年6月6日 青森県景観フォーラム参加 ○令和5年6月28日 まちづくり実行委員会総会(前期5か年取り組み報告) ○令和5年7月10日 どこでも博物館の会総会(令和5年度事業計画協議) ○令和5年9月7日 商工会議所観光振興委員会(標柱を活用した企画事業の検討) ○令和5年10月31日 秋田職能短大と共同研究契約(ARを活用した大館城の制作) ○令和5年11月28日 観光物産情報発信会議総会(街歩きデジタルマップ運用を協議) ○令和6年1月17日～3月8日 景観まちづくりに関する意見交換(市教育委員会、市内各中学校長/建築、樹木、文化財等関係団体) ○令和6年3月11日～ 景観計画策定作業部会と打合せ	○令和5年4月12日 県北圏域新テクノサテライト構想推進協議会(取り組み紹介) ○令和5年4月14日～22日 大館城史料展示(庁舎5階ロビー)(文化財保護協会) ○令和5年4月25日 成章中、東中(職場体験学習) ○令和5年7月11日 秋田職能短大(インターンシップ) ○令和5年7月25日 盛岡専門学校生(インターンシップ) ○令和5年7月31日～8月1日 国際情報学院高(インターンシップ) ○令和5年8月4日 南地区行政協力委員会(出前講座) ○令和5年9月23日～24日 生涯学習フェスティバル ○令和5年9月26日 北羽歴史研究会(出前講座) ○令和5年10月4日 城南小歴史探訪(郷土学習) ○令和5年10月16日～31日 田村氏水彩画展示(庁舎5階ロビー) ○令和5年11月2日 西館小歴史探訪(郷土学習) ○令和6年3月14日 鳳鳴高(出前講座)

出前講座等の開催



令和5年8月4日
(南地区行政協力委員会/出前講座)



令和5年10月16日～31日
(田村まさよし氏水彩画展示)



令和5年11月2日
(西館小歴史探訪/郷土学習)

景観計画策定に向けた取り組み状況



令和5年6月6日
(青森県景観フォーラム参加)



令和5年12月15日
(景観まちづくり推進協議会設立)



令和6年2月20日
(景観まちづくりに関する意見交換/大館商工会議所観光振興委員会)

主催事業の開催



令和5年10月16日～17日(東北・歴史まちづくり推進会議)
取組発表(黒石市など)、現地視察(御成座、子どもの遊び場、曲げわっぱ工房など)



ハチ公生誕100年プロジェクト&
歴史まちづくり～コラボ企画～



令和5年11月4日(シビックプライドフォーラム)
基調講演(東京理科大伊藤教授)、パネルディスカッション(地域の誇りとまちづくり)

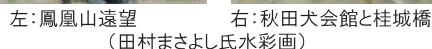


～「大館だなあ」という景観を見つけて磨き、自信と誇りをもって住み続けたいまちへ～

良好な景観は、「国民共有の資産」、「地域の自然、歴史、文化等の
人々の生活、経済活動等の調和により形成」、「地域の固有の特性と
密接に関連」、「地域の活性化に資する」、「保全のみならず新たに
創出することを含む」。

- (1) 時間軸を感じる地域固有の風景や、歴史・伝統・文化の営みを醸し出す風土を守り育て、まちの魅力を高める。
- (2) 地域住民と一緒に景観に関する意識を高め、景観づくりに取り組み、自信と誇りが持てるまちづくりを継続する。
- (3) 歴史的風致維持向上計画の重点区域外の比内地域や田代地域において、景観まちづくりを推進し、歴史まちづくりの広がりにつなげる。

歴史的風致維持向上計画に基づき、今まで取り組んできた景観形成に関する事業について、景観形成の基準を設けることで、大館らしさを出す統一的な都市空間が形成される一方、地域の魅力の個性化も実現可能となる。



(1)市民が考える景観資源を明確にする

- ・市民が主体的に向上・改善に取り組むために関心の高いテーマを見出しつつ、効率的な景観形成への工夫を図る。
- (2)市民の「良好な景観づくり」の機運を高める
- ・良好な景観とは何か？気になる景観とは何か？を把握し、周知を図り、市民と共有しながら市民の生活に根差しているか否かの視点を重視し、機運を高める。
- (3)景観づくりに無理なく守れるルールづくりを行う
- ・景観計画において市域全域で景観形成が求められるため緩やかなルールを設定し、参画を促し、機運の高まりに応じて設定の見直しを図る。

(1) 歴史的風致を守り、新たな魅力を創出する【守る・創る】

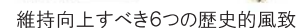
- ・大館城本丸跡を核とした城下町の歴史的景観など多くの歴史的風致を守り、磨き上げによる新たな価値を創る。

(2) 自然環境等を守り、人の手を入れて育てる【守る・育てる】

- ・田代岳、鳳凰山などの山並み風景や田園風景を守り、地域資源の秋田杉、温泉などを抱える景観を育てる。

(3) 市民が創り出した新たな景観を育てる【創る・育てる】

- ・大館駅周辺や御成町南地区、無電柱化の整備など、近年創り出されてきた景観を市民と一緒に育てる。



守って・創って・育てて、自信と誇りをもって住み続けたいまちへ

業務内容		年度・月					令和6年度										令和7年度									
		11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月			
1.基礎調査の把握及び整理	①基礎情報の把握		→																							
	②上位計画及び規制状況の把握・整理		→	→																						
	③景観資源と景観阻害要因の把握			→	→																					
	④地域の景観特性と課題の整理				→	→																				
2.景観計画の作成	①景観計画区域の検討(重点地区含)						→	→																		
	②景観計画区域における景観形成方針の検討						→	→	→																	
	③行為の制限に関する事項の検討(屋外広告物含)							→	→	→	→															
	④景観形成基準の検討(屋外広告物含)								→	→	→	→														
	⑤景観重要建造物、樹木の指定方針の検討									→	→															
	⑥その他、景観計画に関する事項の検討									→	→	→														
	⑦景観重点地区に関する事項の検討									→	→	→	→													
	⑧景観形成の推進方策等の検討												→	→												
3.関係者意見交換	①市民アンケートの実施		→	→																						
	②関係団体との座談会の開催			→	→	→	→																			
	③重点地区での座談会の開催(地区公民館)						→	→			→	→														
	④景観教室の開催(小学校)※探訪学習と連携						→	→																		
	⑤パブリックコメントの実施、回答作成														→	→										
		策定目的・スケジュール アンケートの内容確認					アンケート・座談会報告 市民が考える景観とは					中間報告 大館らしさの景観ルール					計画素案の内容確認 座談会等の報告					計画案の内容確認 パブコメ結果報告				
4.協議会・審議会	①景観まちづくり推進協議会		第1回			第2回				第3回				第4回				第5回								
	②歴史的風致維持向上協議会・都市計画審議会					進捗報告					中間報告			素案報告				最終報告								

関係団体との意見交換の内容について

資料2-③

NO	開催年月日	関係団体	取り組みなど	課題など	対応関連部署
1	令和6年1月17日 ～26日	・市教育委員会 (教育監、学校教育課) ・市内9中学校 (校長、教頭など)	・アンケートは「景観」を把握できる表現が必要である ・小学校対象の景観教室は地域学習の取り組みとして良い ・田代地域の子どもは田代岳登山により愛着がある ・他地域から赴任の教諭も地域を知っていただく機会になる ・地域の歴史を学ぶ探訪の際に景観も視野に入れたい	・外を見て、ふるさとの良さを体感できる機会の提供 ・景観づくりの取り組みによってもたらされる効果や事例の紹介が必要 ・旧庁舎跡地は、市民や来訪者が訪れるエントランスとなる場所なので早期に整備が必要 ・クラウンパレス(旧秋北ホテル)の今後の予定	・教育委員会 ・総務課庁舎建設 ・都市計画課 ・まちづくり課
2	令和6年2月8日	大館歴史的建造物研究会 (ヘリテージマネージャー)	・比内や田代地域において、古い建物でも残したい良いものはたくさんある ・地域で核となる建物があれば、取り組みやすい ・景観重要建造物は、研究会の調査報告書を参考とすべき ・景観賞の表彰により市民や事業者の景観への関心の向上に期待	・近年、歴史的に価値がある建物の解体が進んでいるので対策を講ずるべき ・重伝建など歴史的な街なみが残っている地区の景観のルール設定は理解できるが、大火で街なみが残っていない地区のルール設定への理解 ・建物の外壁や生け垣などの修景などの助成が必要	・危機管理課 ・都市計画課 ・まちづくり課
3	令和6年2月20日	大館商工会議所 観光振興委員会 (大館市観光協会、 どこでも博物館の会など)	・長倉から新町までの電線類が地中化され、大町から青森方面の眺望は、良くなった ・秋田犬の里、新駅舎の建設など大館駅前周辺の開発が進んで、賑わいの創出が進んでいる ・小、中学校の成り立ちや、まちの歴史についてFMラジオで編集し、給食時に放送予定であり、どこでも博物館の音声ガイドも検討中	・大館駅前の開発により、古い建物の老朽化が目立つようになった ・空き店舗の活用したいと起業相談が増加しつつあるが、店舗の水廻りが生活拠点の後方や二階にあるため初期投資が高く課題 ・旧正礼竹村跡地が衰退したまちの象徴となっており、賑わいの拠点として利活用すべき	・商工課 ・都市計画課 ・まちづくり課
4	令和6年2月27日	日本樹木医会秋田県支部 (樹木医)	・桜再生会議設立以降、庁内の横断的な取り組みにより徐々に良くなってきた ・長木川や釈迦内地区など鉱山で栄えた時の名残があり、桜の名所になりうる所が多い ・桜を生かすために、松などの他の樹種が存在が大切であり、桂城公園はカツラやヨーロッパヒなど	・景観重要樹木の指定が多いほど、維持管理費や景観への活かし方など持ちえないため、指定解除となるケースがある ・適切な管理には、市民や業者、職員などの人材育成が不可欠 ・樹木、樹形整理という視点から、人間が樹木の立ち位置を尊重することが重要なため、市民の関心度の向上に向けた取り組みが必要	・都市計画課 ・まちづくり課 ・桜再生会議
5	令和6年3月8日	大館市文化財保護協会	・大町は都市景観の象徴であったが、人通りが少なく40年前と比べてとても寂しい感じがする ・次世代を担う生徒へのアンケートの実施や、今後の景観教室の開催はとても意義がある ・秋田スギの木の文化や歴史について、子どもから大人まで関心が持てるようもっと発信すべき ・羽州街道、鹿角街道など街道の景観を保全すべき	・八幡神社～大館城本丸跡(桂城公園)～愛宕神社までの歴史的に価値のあるルートを市民や来訪者が歩きたくするよう景観に配慮して整備してほしい ・大館城本丸跡の修景整備にあたり、城址公園に相応しい景観に配慮し、賑わいの拠点となる整備に期待 ・石田ローズガーデンは改修後綺麗になったが、狩野良知・亨吉生家跡の歴史が分かる展示場所の設置	・都市計画課 ・まちづくり課 ・観光課 ・歴史文化課
6	令和6年3月8日	田村まさよし (水彩画)	・水彩画集を見た方々より「大館に行った事はないが、とてもきれいな町ですね」と言われる ・過去に描いた建物が解体され、空き地が増えつつあり、大館らしい景観が無くなるのが寂しいが、解体前に描いておく事ができれば、後に懐かしいと思ってもらえる	・合併して20年が近づいている中で、比内、田代地域も含めた各地区の入口に、地名や伝統行事、特産品などを知り得る銘板や彫刻などを、景観に配慮しつつ橋の欄干や街灯などに設置してほしい 地元のの方は誇りが醸成されるとともに、初めて訪れた方に優しいうえ、心が弾みSNSの発信によりPRIにもつながる	・危機管理課 ・観光課 ・まちづくり課

共同研究の成果について

「ARを活用した大館城の制作／秋田職業能力開発短期大学校」

資料3-1

○共同研究に至った経緯

“歴史と未来が交差する水と緑の城址公園”を目指して、本丸跡修景整備基本計画の策定にあたり、大館城の認識度の向上や、しつらえ方が課題となっていた。

大館城消失により、貴重な文献がほとんど無い中、市民や来訪者に本丸跡をどのように伝えるかを検討したところ、次の3点の手法で進めることに決定した。

(1) 城に入城するしつらえの整備について

お濠を渡り入城するように、木橋風デッキを設置

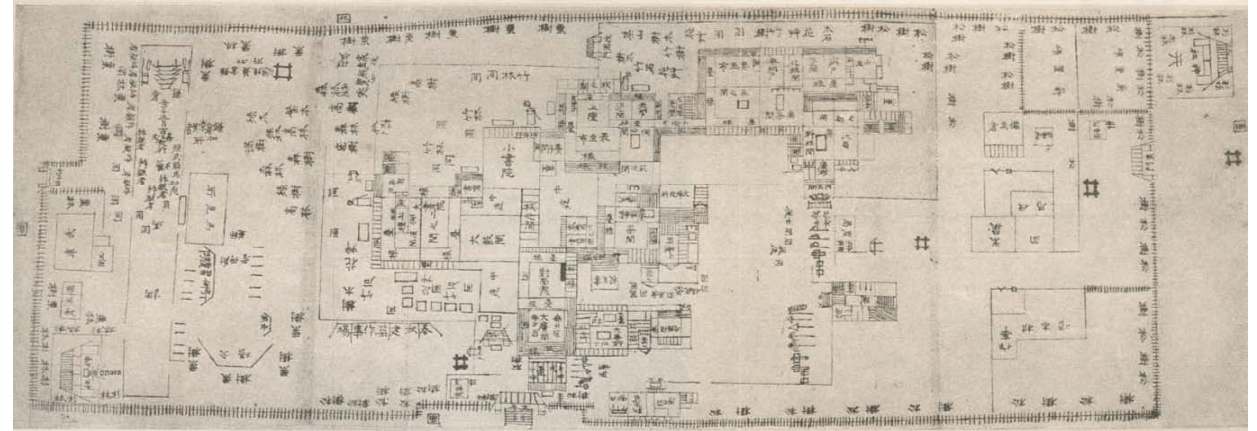
(2) 城を認識できる表現の仕方について

景観を考慮し、芝生との色や質を変えて、位置や形を平面で表現

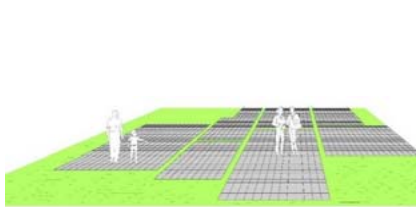
(3) 立体的な城の見せ方について

平面図から3D画像データを作成し、ARを活用して見える化

歴史的風致維持向上協議会委員の秋田職業能力開発短期大学校住居環境科 小笠原吉張特任教授から、卒論研究テーマとして採用したいとの打診があり、共同研究で取り組むこととした。



大館城内見取図(大館市史第二巻)



本丸のしつらえのイメージ図



庁舎と調和を図り、木橋風デッキを設置



大館城本丸跡修景整備基本計画(鳥瞰図)



完成した大館城本丸3Dモデル(あらゆる角度から本丸を見ることが可能)

建設業における AR の活用について ～大館城の制作～

秋田職業能力開発短期大学校

住居環境科 柴田 大雅 下苧坪 大陽
指導教員 小笠原 吉張

1. はじめに

近年は建築業界にも IT 化の時代が来ており、その中でも AR と VR が多く使われるようになってきている。そこで私たちは何か建物を 3D モデル化し、その建物を AR や VR を使い再現できないかと考えた。大館市庁舎の新築事業を完了した大館市から、旧庁舎跡地の整備とともに桂城公園の修景整備の中で今はない大館城を現代に再現できないかとの話があり、それで私たちが再現し、かつての大館城をだれでも気軽に見られるようにすることを目標として本研究を始めました。

2. AR や VR の建築での活用

まず AR や VR が実際に、どう使われているのか調べました。竹中工務店は名古屋城の天守閣を ARCHICAD を使って復元しているという記事を見つけました。その記事を見てみたところ、史実や昔の写真が多く残っており、再現に最適な城だということが分かった。3D 化をするメリットとしては、普段 2 次元では対応できない複雑なところでも 3D 化することで分かりやすくなり作業を進めることができる。また完成後のイメージを立体的にすることで、共通認識を持つことができイメージのずれなども解消できスムーズに工程を進められるようになる。

こういった技術は設計の場面だけでなく、現場でも力を発揮してくれます。例えば建設現場には高所作業を伴う危険箇所がたくさんある。そういう場所の危険を可視化することができ、安全な作業などにもつながっている。そういった技術があることで建設業の 3K などの悪いイメージの払しょくにもつながっていくと思います。

3. 平面図を jwcad へ

大館城は史実に関する情報があまり残っていない、そのため少しの図面しかなく難しい状況からスタートした。まずは平面図を CAD に起こしそれから 3D 化作業に進むため CAD を使った。

平面図は市内で設計事務所を主宰していた故、佐藤士朗さんが古図より写したとされる図面を使用しました。ですが、この平面図には縮尺や寸法が記載されていなかった。昔の武家屋敷の京間やモジュールなどからピッチを想定し平面図の作業に取り掛かった。

京間というのは、和風建築の間取り方式のひとつで、大間とも呼ばれる。地域によって異なりこの中京地区および東北、北陸の一部、沖縄で多く使われていたとされる中京間を想定し、柱間は 6.5 尺と定め、平面図の修正を行った。

作業は二手に分かれ行った。大館城の柱の大きさは 240mm や 360mm のものがあつた。現代の一般的な柱の大きさは 120mm なので 2 倍ほど差がある。

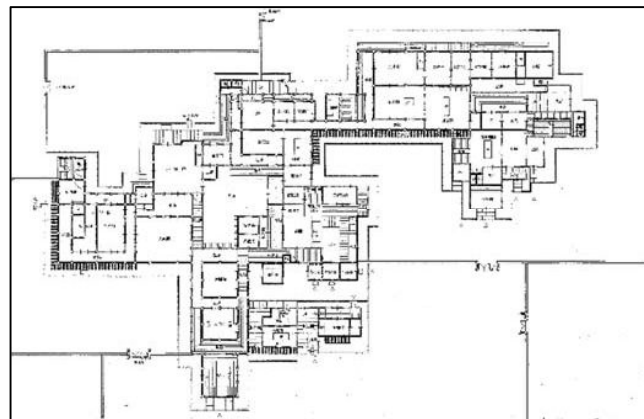


図1 大館城平面図

4. ARCHICAD での 3D モデル製作

Jwcad で作った図面を ARCHICAD に写し、本研究での一番要となる 3D モデルに取り掛かった。

まず柱などの高さを出すために割合を使い計算し求めた。

姿図はあるものの色が白黒で各部材の詳細が分からなかった。壁は多くが木材と石膏が使われていた、姿図に近い割り付けを探した。柱は、大館市近郊で産出されていた杉が多く使われていたと考えている。

特に屋根が難しく、複雑な構造になっていたのでどこから手を付けていいか分からなかった。屋根の形状も切妻屋根、入母屋屋根、棟違い屋根など複数の屋根が入り組み、かつ重なっていた。また、今手元にある姿図も佐藤士朗さんが想定したもので、現物の大館城とまったく同じというわけではないので少し自分たちの想像力を働かせながら作りました。

他にわからない場所は、今存在している角館の武家屋敷などを参考にして作り進めていった。

他の武家屋敷を調べていくことで、似ている屋根の形などが分かった

小屋組み等の図面がなく、今回の目標は、まず外観の 3D モデルを完成させることであったため、屋根は、上に乗せる形となってしまっているが、できれば小屋組み等もつくり込みたいと思った。

そうして大館城の 3D モデルの完成までたどり着くことができました。

時間はかかってしまったがしっかりと完成させることができよかった。



図 2 大館城 正面

5. デジタルデバイスでの可視化について

観光客や市民が、3D モデルで作成した大館城を自分のスマートフォンやタブレットで見ることができるようにするためには、AR（拡張現実）のデータとして返還する必要がある。

AR には一般的に「マーカ型（画像認識型）」「GPS 型（位置認識型）」「平面認識型」「物体認識型」の 4 タイプに分けられる。またアプリが必要なタイプと、アプリレスの WebAR がある。アプリを使用するタイプでは、アプリをダウンロードする必要があるほか、多くは ipad 専用などの条件が付いているものが多い。かつ契約に多くのお金がかかる。

そのため、WebAR を想定して検証を進め、できるだけお金をかけずに、多くの方が利用できる形式を検証中である。

6. おわりに

現代では、AR（拡張現実）や VR（仮想現実）をはじめとするデジタル技術が建築現場や設計の現場に多く取り入れられ、効率性を高めるだけでなく、安全性を高めるためにも活用されていることが分かった。

大館城の 3D モデルの製作は完了し、AR 技術の検証まではある程度できたが、当初の目標であった大館城のデジタルデバイスによる AR での可視化には至ることができなかった。アプリを使用すれば可能であることはわかってきたが、契約金が発生するため、使用するとすればどのアプリが最適であるのかについて検討する必要があるため、今しばらく時間が必要である。

デジタル技術については、すでに現場などにも導入され、身近なところにも波及していることから、将来自分たちにも深くかわってくるものと考えられるため、今後も積極的に挑戦していきたいと考える。

参考文献

大館城本丸 製作 佐藤士朗
建築計画 I
インテリア計画
AR の教科書
AR の実践教科書

鳥潟会館庭園の名勝指定に向けた取り組みについて

資料4

○鳥潟会館庭園名勝地調査事業

年度	委員会開催日	調査内容
平成30年度		○鳥潟会館名勝地調査準備委員会
令和元年度	第1回委員会 (令和元年11月22日)	○鳥潟会館名勝地調査委員会設置 ●現地状況の把握及び現地調査 ●鳥潟会館庭園の地形測量
令和2年度	第2回委員会 (令和2年12月書面開催) 第3回委員会 (令和3年3月23日)	●史資料、沿革及び既往調査の整理 ●庭園の空間構成及び構成要素について整理 ●庭園実測図の作図及び補足実測
令和3年度	第4回委員会 (令和3年10月29日)	●庭園の価値の取りまとめ ●庭園図化作業及び補足実測、毎木調査
令和4年度	第5回委員会 (令和4年6月26日)	●庭園の価値のとりまとめ ●調査報告書の作成



第3回委員会



第4回現地確認

○第17回文化財庭園フォーラム(令和4年6月25日～26日)

第17回 文化財庭園フォーラム

「大館に実現された京都の技(わざ)」



庭園保存技術 実技技能研修



剪定技術見学会



庭園フォーラム

日時:2022年 6月25日(土)・6月26日(日)

会場:技術見学会 鳥潟会館庭園

シンポジウム 市民文化会館(ほくしやホール)

主催:文化財庭園保存技術者協議会(道県保存技術者団体)

後援:秋田県教育委員会・大館市・大館市教育委員会

協力:文化庁

問合せ:(秋田県内の方)文化財庭園保存技術者協議会事務局

申込み:(秋田県内の方)大館市教育委員会歴史文化課

入場無料

事前申込制(定員:100名)

6/25 午前9時

6/26 午前9時

200名

Tel.075-431-0055

Fax.075-431-0006

Tel.0186-43-7133

Fax.0186-48-2512

※参加費は各県の方(県外)は別途参加費を要する。FAXにてお申込み下さい。
※今後の新型コロナウイルス感染症の状況により、中止する場合がございます。

このフォーラムは、文化庁「令和4年度文化財保存技術者研修」に併行して開催します。

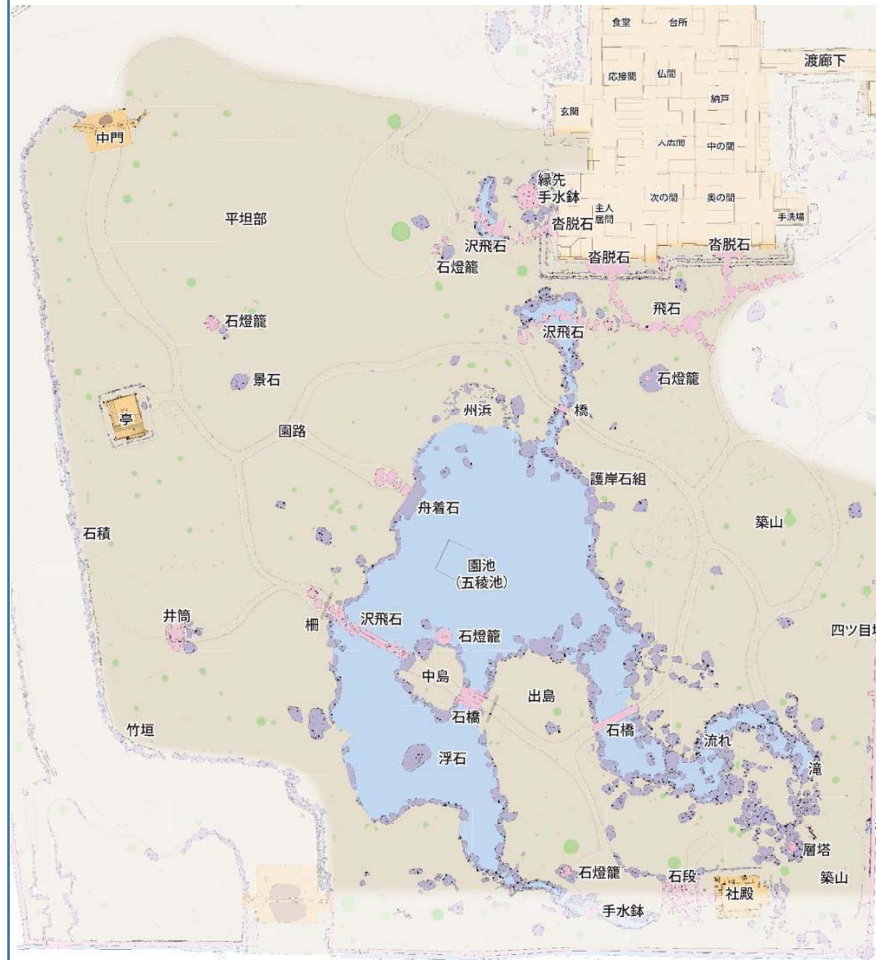
○鳥潟会館庭園名勝地調査報告書(令和5年3月発行)一部抜粋



〔巻頭写真〕 新座敷(主人居間)から主庭を望む



〔巻頭写真〕 沢飛石と中島



主庭の構成要素位置図



庭園造園の様子(昭和10～14年)
NAKAMURA PHOTO STUDIO撮影



園池と主屋(昭和13年4月)



先生帰京の荷物 台所門の前
(昭和14年旧正月)

〔古写真〕大館郷土博物館所蔵